

市議会広報広聴委員会視察報告書

【視 察 日】 令和4年10月25日（火）～26日（水）

【視察委員】 川島 美希子副委員長、さとう まりこ委員、大石 心平委員、薮崎 正幸委員
平井 登委員、山本 信行委員

【視 察 先】 （1）岩手県奥州市 （2）福島県福島市

【調査事項】 令和4年10月25日（水）岩手県奥州市 多様なメディアを活用した情報発信について

①市の概要

岩手県の内陸南部に位置し、稲作を中心とした複合型農業により、県内屈指の農業地帯となっている。また、交通の利便の良さを背景に、県内でも屈指の商業集積が進み、工業団地等が整備され、伝統産業や基幹産業の事業展開が図られている。面積 993.3k m²、人口 112,538 人

②取り組みの経緯・内容

- ・平成18年の合併時より、人口が10%以上、約2万人減っていることや、前回の市議会議員選挙が無投票だったことなど市政への関心が薄れていることに危機感を抱いている。
- ・「広聴広報委員会」は4つの常任委員会より2名ずつ+議長指名の1名で構成されている。
- ・議会広報誌、議会中継（インターネット・ケーブルテレビ）、ホームページ、SNS（Facebook、Twitter、Instagram）、FM放送などにより情報発信に取り組んでいる。

③今後の課題

- ・市の発信する情報と議会の発信する情報の差別化が難しい。どのようにして区別し、独自情報を選択し継続して発信していくのか。各議員の考察とそのための労力が必要である。
- ・SNSについては、フォロワー数の伸び悩みが課題。いかにして議会に興味をもってもらうか。

また、一議員の力量によるところが大きいのが現状であり、良い面としてはその議員の力によって一定のスタート切れるところではあるが、やはりその反面その議員が携われなくなった時のことを考えると、全ての議員がSNSについて各プラットフォームのそれぞれの特徴を含めた一定の知識と実践が必要となる。

④本市に反映できると思われる点

- ・市議会だよりにおける、高校生へのインタビューは若い世代への注目度アップとして良いと感じた。また特集記事などで、議員が直接現場に足を運び取材を行って記事を作成していた。

- ・紙媒体は費用もかかり、タイムリーな情報発信には向かないというデメリットがある。
- 奥州市議会の議員は全員が現状に危機感を持

ち、SNSが苦手な議員も挑戦している。この先の10年後を見据えるのであれば、藤枝市の議員もSNSなどの情報発信ツールに触れていかなければならないだろう。



【調査事項】 令和4年10月26日（水） 福島県福島市 議会だよりのリニューアルについて

①市の概要

福島市は福岡県の北部に位置し、気候は内陸性気候であり、典型的な盆地気候の特徴を示す。四季の寒暖の差が激しく、夏は暑く冬は寒い。暖地性、寒地性の果物の両方が栽培され、サクランボ、モモ、ナシ、ブドウ、リンゴ、カキと四季折々の果実が収穫され、全国有数の果物の産地となっている。面積 767.72k m²、人口 277,963 人

②取り組みの経緯・内容

令和3年4月の中核市議会議長会、議会報コンクールで「ふくしま市議会だよりに対し、審査員から「まず手に取ってもらうために、表紙はもっと大胆なレイアウトにすることを考えてもいいのでは。一般質問についてはもっと見出しや顔写真を目立つようにレイアウトできればよいのでは」などの意見をもらい、翌年5月1日発行号からリニューアル。文字が多く手に取りにくかった表紙は、写真を全面に配置して手に取ってもらいやすく、一般質問も一対の問答以外に質問項目のみ簡単に複数個掲載、議案名も頭の「福島市」を省略し、簡易名称化するなどの工夫が図られた。

③今後の課題

- ・物価の高騰は印刷製本費にも影響しており、紙媒体でこのまま持続していくことへの限界。このことについては藤枝市議会も全く同じ問題を抱えており、これまで手を付けてこなかった経費削減について早急に検討していかなければならない。
- ・福島市は「市政だよりに」への折り込みのため、業者が限定されてしまうことにより割高になってしまう。
- ・事務局へ丸投げの部分もあり、広報広聴に対する議員の意識改革が必要。
- ・これからを見据えたデジタル化への対応

④本市に反映できると思われる点

- ・手に取ってもらうための大胆な表紙レイアウトについては藤枝市議会も検討していく必要がある。
- ・藤枝市も予算がひっ迫していることから、福島市議会のように表紙・裏表紙のみカラーで中は白黒印刷にするなど、経費削減策の検討が必要
- ・福島市の人口は藤枝市の2倍弱、議員数は



1. 5倍強と、中核市であり、藤枝市よりも規模の大きな市であるが、「ふくしま市議会だよりに」は限られた紙面数全8ページの中でうまくまとまっていた。藤枝市議会は全16ページが主となっている。市議会に一番興味関心をもってもらいたい若い世代は活字よりも、時間当たりになしたたくさんの情報量が得られる動画を中心に、情報収集をしているとも言われている。ページ数が多ければ読んでもらえるというわけではないので、内容を精査して、ページ数についても今後検討が必要であると思われる。